

2006年度 決算説明会

2007年5月28日

**三洋電機株式会社
社長執行役員**

佐野 精一郎

2006年度 連結決算 概要

(単位:億円)

連結	2005年度 実績	2006年度 見込	2006年度 実績	対見込	対前年
売上高	23,970	22,000	22,154	+154	△1,816
営業利益	△171	350	496	+146	+667
税前利益	△1,657	△250	△131	+119	+1,526
当期利益	△2,057	△500	△454	+46	+1,603

(06/11公表)

2007年度 見通し

(単位:億円)

連結	2005年度 実績	2006年度 実績	2007年度 見通し	対前年
売上高	23,970	22,154	22,300	146
営業利益	△171	496	450	△46
税前利益	△1,657	△131	320	+451
当期利益	△2,057	△454	200	+654

2007年度見通し 営業利益増減要因

(単位:億円)

連結	2005年度 実績	2006年度 実績	2007年度 見通し	対前年
営業利益	△171	496	450	△46



事業収益力の底上げ（コア事業を中心に）



原材料価格の高騰



税制変更による減価償却費の増加

2007年度計画必達へ向けて

重点施策

携帯電話

海外キャリアへの展開強化

デジカメ

営業活動強化による安定受注

二次電池

リチウムイオン電池の拡大

太陽電池

欧州を軸とした海外市場での拡販を推進

マスタープラン策定における事業ポートフォリオの考え方

1 「環境・エネルギー先進メーカー」としての顔

2 当社を支える収益事業体としての
「収益性・成長性」



**環境・エネルギー先進メーカーへ向けての
「マスタープラン」策定**

(三洋の目指すべき全体像を描く全社事業戦略)

モチベーションの向上へ

経営課題

モチベーションの向上

原因への対処

将来像の明確化（会社・個人）

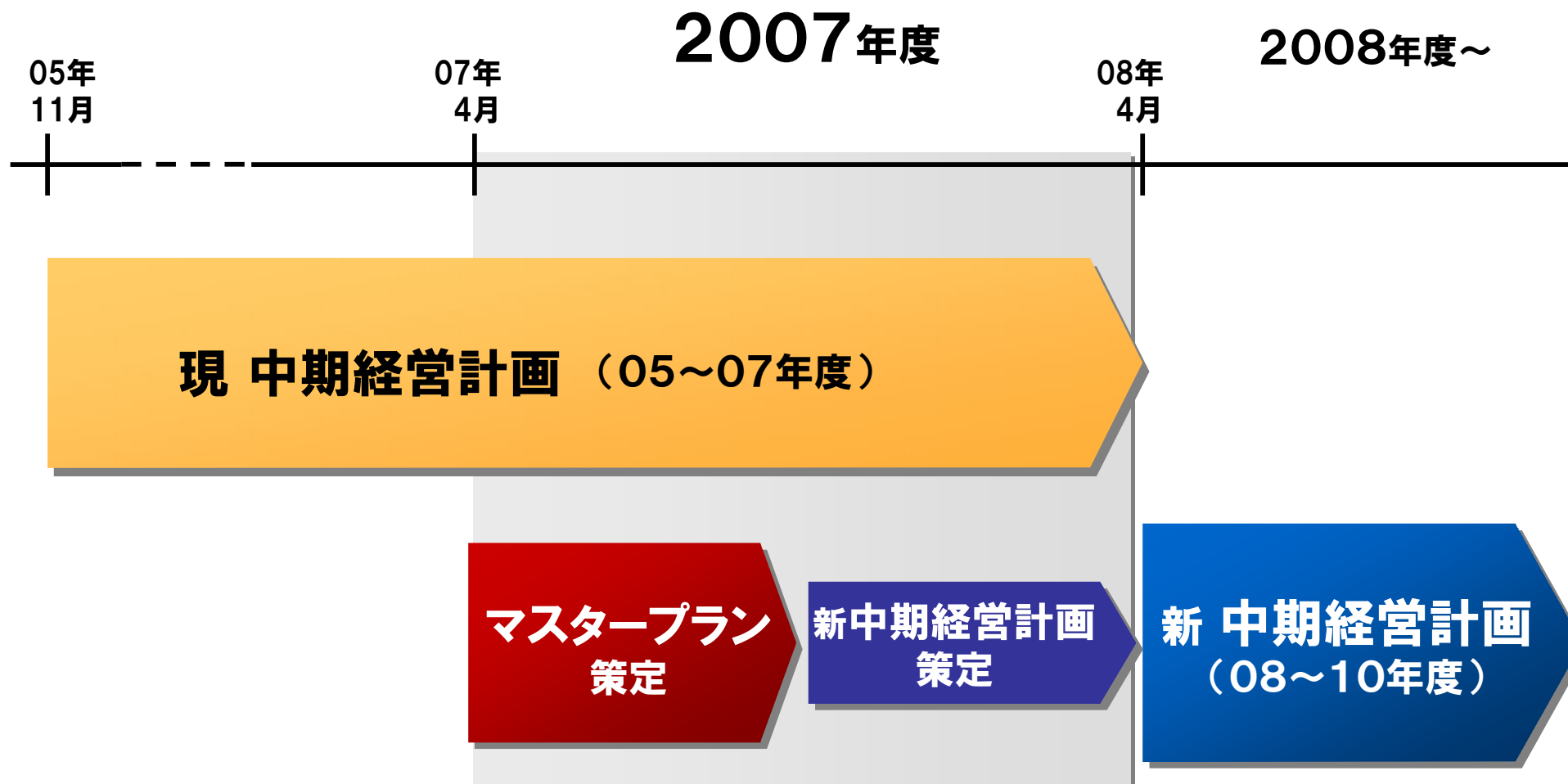
**マスタープランの
策定と共有化**

- 明確な将来像の全社共有
- 全社戦略に基づいた経営資源の最適配分

人財力の強化

- 積極的な人財育成投資、人材確保強化
- 新人事システムの運用徹底

着実な成長へ向けて



**2007年度の黒字化達成を布石に
来期以降の着実な成長へ**



将来の見通しに関する注意事項

このプレゼンテーションに掲載されている過去の事実以外の記述は、三洋電機の現在の計画、見通し、戦略などから予測した将来の業績に関する見通しであり、これらは、現時点で得られる情報をもとにして当社で経営判断したものであります。従いまして、取得する情報の正確性や信頼性について、保証を行うものではありません。これらの情報のみにより全面的に依拠することはなさないようにお願いします。

業績の変動要因はさまざまなリスクや不確実性を含んでおり、影響を与え得る重要な要素には次のようなものがあります。1)当社が取り組んでいる事業における経済情勢や資本市場の大幅な変動や消費動向の変化。2)国際的な事業展開を行ううえで米ドルまたはその他の通貨と円との為替レートの変動。3)各国市場における様々な貿易規制。4)IT(Information Technology)における急激な技術革新、市場競争、価格競争のなかで当社が新技術、新商品、サービスを提供できる能力など。ただし、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものでなく、潜在的なリスクや不確実性を含んでおりますので、ご承知おきください。